



神経痛、下肢痛、しびれ

知っておきたい
漢方4処方

四肢関節の疼痛、
腫脹、
四肢の運動障害、
寒冷により増悪※



神経痛、関節痛に

18 ツムラ桂枝加朮附湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

腰部より下肢に
かけての筋肉、
関節、神経が痛む、
冷えにより増悪※



神経痛、関節痛、腰痛、筋肉痛に

53 ツムラ疎経活血湯
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)



寒冷や
湿気による痛み、
貧血気味で、
上半身が熱し
下半身は冷える※

慢性に経過し、症状の激しくない次の諸症
神経痛、関節痛、月経痛に

63 ツムラ五積散
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

体力の低下した人
あるいは老人で
腰部・下肢の脱力感、
冷え、排尿の異常※



疲れやすくて、四肢が冷えやすく
尿量減少または多尿で時に口渴がある次の諸症
下肢痛、しびれ、腰痛に

107 ツムラ牛車腎気丸
エキス顆粒 (医療用) (薬価基準収載)

※使用目標=証 監修:大塚恭男、花輪壽彦(北里大学) 裏面参照

18 ツムラ桂枝加朮附湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

関節痛、神経痛

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

冷え症で比較的体力の低下した人が、四肢関節の疼痛、腫脹、四肢の運動障害などを訴える場合に用いる。

- 1) 関節痛があり、寒冷により増悪する場合。
- 2) 微熱、盗汗、朝の手のこばり、尿量減少などを訴える場合。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 体力の充実している患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。] (2) 暑がり、のぼせが強く、赤ら顔の患者[心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等があらわれるおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。

53 ツムラ疎経活血湯エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

関節痛、神経痛、腰痛、筋肉痛

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

体力中等度の人で、腰部より下肢にかけての筋肉、関節、神経が痛む場合に用いる。
冷えにより増悪することが多い。

2) 痲痺*を伴う場合。

*痲痺: 漢方の一概念で主として婦人科疾患、出血性疾患などに起こり、静脈系のうっ血、出血などに関連した症候群をいう。
(日本医師会発行、医薬品カードより)

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等があらわれるおそれがある。] (2) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。]

63 ツムラ五積散エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

慢性に経過し、症状の激しくない次の諸症：
胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、冷え症、更年期障害、感冒

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

体力中等度前後の人で、寒冷や湿気に侵されて、腰痛、下腹部痛、下肢の痛みなどを訴える場合に用いる。
1) 貧血気味で、上半身が熱し下半身の冷える場合。 2) 月経不順や月経困難などのある婦人。

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 病後の衰弱期、著しく体力の衰えている患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。] (2) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等があらわれるおそれがある。] (3) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] (4) 発汗傾向の著しい患者[発汗過多、全身脱力感等があらわれるおそれがある。] (5) 狭心症、心筋梗塞等の循環器系の障害のある患者、又はその既往歴のある患者 (6) 重症高血圧症の患者 (7) 高度の腎障害のある患者 (8) 排尿障害のある患者 (9) 甲状腺機能亢進症の患者 [(5)~(9): これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。 (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。 (3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

107 ツムラ牛車腎気丸エキス顆粒(医療用)

効能又は効果

疲れやすくて、四肢が冷えやすく尿量減少または多尿に時に口渴がある次の諸症：
下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、かゆみ、排尿困難、頻尿、むくみ

〈参考:証に関わる情報〉使用目標=証*

比較的体力の低下した人あるいは老人で腰部および下肢の脱力感、冷え、しびれなどがあり、排尿の異常(特に夜間の頻尿)を訴える場合に用いる。
1) 上腹部にくらべて下腹部が軟弱無力の場合(臍下不仁)。
2) 多尿、頻尿、乏尿、排尿痛などを伴う場合。
3) 疲労倦怠感、腰痛、口渴などを伴う場合。
4) 高齢者の虚弱(フレイル)などで衰弱している場合。

*使用目標=証 監修: 大家恭男、花輪壽彦(北里大学)

なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。 (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。 (3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。含有生薬の重複に注意すること。

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1) カンゾウ含有製剤 (2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。 また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症: 低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。 2) ミオパチー: 低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痠痛・痲痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒痒等	注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
その他	心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等	

(2007年5月改訂)

2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。 (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。 (3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1) カンゾウ含有製剤 (2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。 また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症: 低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。 2) ミオパチー: 低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痠痛・痲痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒痒等	注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
その他	心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等	

(2007年5月改訂)

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1) マオウ含有製剤 (2) エフェドリン類含有製剤 (3) モノアミン酸化酵素(MAO)阻害剤 (4) 甲状腺製剤 チロキシリン、チオチオニン (5) カテコールアミン製剤 アドレナリン、インプレニン (6) キサンチン系製剤 テオフィリンジプロピリン	不眠、発汗過多、頻脈、動悸、全身脱力感、精神興奮等があらわれやすくなるので、減量するなど慎重に投与すること。	交感神経刺激作用が増強されることが考えられる。
(1) カンゾウ含有製剤 (2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。 また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。(「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿管管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 偽アルドステロン症: 低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。 2) ミオパチー: 低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痠痛・痲痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒痒等	注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
自律神経系	不眠、発汗過多、頻脈、動悸、全身脱力感、精神興奮等	
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等	
泌尿器	排尿障害等	

(2007年11月改訂)

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 体力の充実している患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。] (2) 暑がり、のぼせが強く、赤ら顔の患者[心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等があらわれることがある。] (3) 著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹部膨満感、腹痛、下痢、便秘等があらわれることがある。] (4) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。 (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。 (3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。 (4) 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1) 重大な副作用 1) 間質性肺炎: 発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれる場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。 2) 肝機能障害: 黄疸: AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
過敏症 ^{注1)}	発疹、発赤、痒痒等	注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹部膨満感、腹痛、下痢、便秘等	
その他	心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ等	

(2014年10月改訂)

■ 用法及び用量: 通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

■ 日本標準分類番号: 875200 ■ 薬効分類名: 漢方製剤 ■ 取扱い上の注意: (貯法) しゃ光・気密容器/(使用期限) 容器、外箱に表示

■ 製造販売会社: 株式会社ツムラ

・ 組成・性状、その他の使用上の注意(高齢者への投与・妊婦、産婦、授乳婦等への投与・小児等への投与)、包装、関連情報(承認番号、承認年月、薬価基準収載年月、販売開始年月等)については製品添付文書をご覧ください。「使用上の注意」等の改訂には十分ご留意下さい。

(2015年6月制作)

(2017年3月改訂)

PSD031 (審)